

減災のために

でやることが

■家庭では生活のなかで備えを

家庭の営みの場である住居は、大切な財産でもあります。大きな地震に耐えられるよう補強することも大切ですが、平成7年に発生した阪神・淡路大震災では多くの方が倒れてきた家具の下敷きになり逃げ遅れてしまったことから、しっかりと固定しておくことが必要です。

大雨に対しては、普段から周辺の溝掃除や樋のゴミを取り除いておくことも大切です。また、市内には急傾斜地30度以上のがけ崩壊危険箇所が403箇所、急傾斜地崩壊危険区域が119箇所も指定されており、住宅の裏にも大雨で崩れる危険性が高い場所も数多くあり、地肌を裂け目があるかなどの点検も欠かせません。

▼台風15号で水位が上がる野洲川



3・11の東日本大震災、翌日12日の長野県栄村での大地震に加え、8月から9月にかけての2度の台風襲来に代表されるように、今年は大きな天災が相次いでいます。私たちの甲賀市でも、将来必ず起こるといわれる東海・東南海地震はもちろん、局地的な豪雨などによる災害が心配されますが、被害をできるだけ少なくする備えが必要です。

一旦、大きな災害が発生すると、市をはじめとする行政機関は個々の被害に対応することが難しくなります。家庭での備え、地域ぐるみで助け合えること、それぞれができることを確かめ、実践していくことで減災につながっていくことができます。

3月11日に発生した東日本大震災。被災地の復興に向け、多くの市民や市の職員が、現地へ赴き、支援活動に携わりました。支援活動にあたられた4名の方の体験を伺いました。

■地域とのつながりを持つことが大切



甲賀市 保健師 谷口かおり 保健師

市が支援する大船渡市で、保健師として仮設住宅を訪問し、健康調査などを行いました。初動段階で感染症対策が隅々まで行き届き、地域づくりがしっかりとれていることを実感しました。

ある仮設住宅では、お互いに声を掛け合い、地域の役員さんなどを中心としてまとまりがありました。

平日頃から地域の力を向上させておくことがいかに大切であるか、住民自らが生活再建に向けて動いていくことがいかに大きな力になるかという認識を深めました。

また、保健師として、普段から地域とのつながりを持ち、災害が起こった後の生活に備えて、感染症を防ぐための方法や、衛生管理

についてのアドバイスなどをしていく大切さを感じています。

■大切なことは「助け合い」



ボランティア 鳥本良伸さん

4月中旬の7日間程度、ボランティアの県外受け入れがあった宮城県岩沼市に赴きました。

ボランティアには、全国から100名以上のボランティアが集まっています。

センターに登録すると、被災者の要請に応じて、活動内容や場所が指示されます。数名から十数名程度のチームで活動し、主に民家の家の中や庭の泥かきを手伝いました。

決して楽な作業ではありませんが、中には、他県で被災したにもかかわらず、ボランティアとして長く活動されている方もおられました。

多くの方の助け合いの心を感じることができました。

■自分の身の安全確保、日頃からの備えが必要

甲賀広域行政組合消防本部では、延べ83名が福島県で活動しました。

そして、大きな災害に見舞われたときのことを想定して、家族の連絡の取り方、避難所の確認、非常時に持ち出す必需品を確認し合うことも万一の場合に役立ちます。別に掲げた「家庭でできる防災対策」をご覧ください、ご家族で話し合う時間を持ってみてください。

■地域ぐるみで大きな力に

― 自主防災組織 ―

8月から9月に来襲した二つの台風は、直撃を免れたものの12号で500ミリ、15号で300ミリを超える連続雨量が市内で観測されました。市内を流れる野洲川も普段の穏やかな流れを一変させた様子に恐怖感を覚えた方も多く

あったと思います。床下浸水をはじめ、農地や市道、林道などにもいくつかの被害が出ましたが、これまでの台風と異なり、進路から離れていても油断ができず、さらにもう少しの間、激しく降り続ければ、どのように被害が広がったかわかりません。

自然災害には、台風のように時間の経過と共に被害が大きくなっていくケースと、地震やゲリラ豪雨のように瞬間的に大きな被害を出すケースとがありますが、ひとたび災害が起きると、被害状況や一人ひとりの安否をいち早く把握することが欠かせません。そこで大きな力を発揮するのが、自主防災組織です。

市内には現在、区や自治会を中心に

は、消火栓の使い方などの指導を受けるなど、自分たちで迅速な消火活動にあたるよう備えています。

昔から大きな火事が多い地域でしたが訓練を繰り返すことで、住民の防災意識が高まり、現在では、ほとんど発生していません。

9月に台風12号、15号が近づいた際には、地域の情報を有線放送で流し、区の執行部と協議員が公民館に待機するとともに区内を巡回し、高齢世帯などへの声かけや、倒木排水溝のおふれにも即座に対応しました。

地域の安心、安全のためには、私たちが一つにまとまり、お互いに助け合うことが必要です。地域のことは地域です、何かあったら区に連絡をという習慣づくに取り組んでいきます。



地域の安心、安全を担う 和田区自主防災組織 区長 西沢啓一さん

― 活動中の自主防災組織の方に話を伺いました ―

74戸、約300名が生活する和田区はこれまで、幸いにも自然災害は起こっていません。和田区自主防災組織は、平成19年に設立。4月20日を「和田区防災の日」とし、毎年直近の日曜日に区民を対象とした防災・防犯の訓練を行っています。

訓練では、消防団による放水のほか、今年